

## 本学学生の生活意識調査(3)

高 橋 艶 子  
佐 藤 通 正  
掛 水 通 子

### はじめに

昭和54年6月に新入学の大学体育学部体育学科、保健体育科、児童教育学科全員に対して生活意識調査を実施し、その結果を昭和55年度の本学女子体育研究所集録に発表した。翌56年には保健体育科、児童教育学科(短大)の同2年生に対して同種の調査を行い、入学以来2年間の生活意識の変化を見て、昭和56年の研究集録に発表した。

今回は、さきの昭和54年度入学の体育学部体育学科の学生に対して同種の調査を行い、4年間の学生生活意識の変化をみようとしたものである。

調査期日 — 昭和57年10月

被調査者 — 体育学部4年生194名(回収率81.1%)

調査項目

- A. 大学について
  - 1. 通学方法, 通学時間
  - 2. 大学についての感想(自由記述)
  - 3. 大学生活についての満足度
- B. サークル活動について
  - 1. クラブ・サークル活動への参加
  - 2. 継続, 不参加, 転部の理由
- C. 余暇の過ごし方について
  - 1. 平日, 長期休暇(4年時の夏)
  - 2. 希望する余暇活動
- D. 大学生活について
  - 1. 大学生活での力の入れ方
- E. 交友関係について
  - 1. 交友関係の満足, 不満足の原因
  - 2. 交友関係の分析
  - 3. 異性交友関係について
- F. 相談したこと, 相談したいことについて

- G. 学習について
- H. 就職について
- I. 全体的反省について

I. 結果の整理

1. 通学方法と通学時間について

第 1 表 通学基地 ( )は%

	総 数	自 宅	寮	下 宿
4 年 次	194(100)	61(31.4)	9( 4.6)	124(63.9)
1 年 次	206(100)	65(31.5)	118(57.5)	23(11.2)

第 2 表 通学時間 (分)

	4 年次と 1 年次の比較 ( )は 1 年次		
	自 宅	寮	下 宿
平 均	78.66(69.24)	8.66(5.06)	5.86(21.66)
S. D	39.54(37.26)	1.92(3.42)	10.8(40.38)
人 数	61 ( 65 )	9 ( 118 )	124 ( 23 )

通学基地の自宅は、1年次と4年次とでは変わらないが、4年次では寮がへり、下宿がふえている。約64%が下宿生活となる。通学時間は、下宿生の時間が非常に少なくなっている。地の利をわきまえての結果であろう。

2. 大学生活について

- a. 「この大学に入って、どのように感じましたか」の上位10位までを1年次と比較してみよう。

( 4 年 次 )	( 1 年 次 )
(1) クラブの上下関係がありすぎる (42)	クラブ, 授業熱心 (28)
(2) 設備が整っていない (22)	きびしい(礼儀, 授業) (23)
(3) 大学らしくない (21)	設備がよい (21)
(4) 自主性, 積極性にかける (20)	失望した (20)
(5) 明るく活発, 感じがよい (19)	体育大らしい (11)
(6) 高校の延長のようだ ( 9 )	授業中うるさい (11)
(7) クラブが盛ん (17)	明るく活発, 感じがよい ( 5 )
(8) 設備がよい (13)	活発 ( 5 )

(4年次)	(1年次)	
(9) 女性らしさに欠ける	(10) 大学らしくない	(5)
(10) クラブにふりまわされる	(8) 設備が整っていない	(0)

## b. 大学生生活の満足度

「あなたは大学生生活に満足しましたか」については、(1)満足が76名(41.8%)、(2)不満足が50名(27.5%)、(3)わからないが56名(30.8%)となっていた。

満足の理由は、1.充実していた(実数26名)、2.友だちができた(14)、3.好きなことができた(10)、4.自分自身を見つめることができた(8)、5.目標に向かってこられた(7)、6.4年間クラブをやり通した(6)、7.楽しかった(4)、8.勉強できた(3)、9.いろいろ学べた、体を動かすことができた(各2)。

不満足の理由は実数は少なかったが、次のものであった。1.やりたいことができなかった(6)、2.やり残したことがある(6)、3.勉強不足、自由な校風でない、授業講義に不満が残る、クラブ活動において不満足(各3)、4.充実した生活が送れなかった、友人関係において、学校周辺の環境が悪い、いろいろと学べなかった、自分の時間がほしい(各2)。

わからないは、1.満足と不満足の間(17)、2.クラブのみ満足他は不満足(10)、3.もう少し何かができるような気がした(4)、4.やり残したことがある、大学生活がまだ終わっていないから(各3)、5.クラブ活動以外のことができない(2)であった。

## 3. サークル活動参加について

クラブ、サークル活動参加は、1年入学以来から同じクラブ、サークルのものが63.4%であるが、1年次の調査においては85.9%であった。22%の移動があった。はじめは参加していなかったけれども、途中で参加したもの、はじめと違うクラブ、サークルに参加したものが11.4%になっている。(第3表)

a. 「4年間同じクラブ、サークルを継続した理由」の10位までは、次の通りである。

1.選手として活躍したいから(45)、2.先生になって役立つから(41)、3.好きだから(16)、4.友だちをつくり健康、体力をつけた(14)、5.プラスになるから、何かクラブ活動をやってみたかった(各7)、7.最後までやり通す(6)、8.自分の記録への挑戦(3)、9.そのスポーツ

第3表 サークル活動参加の状況

( )は%

	4年次
a. はじめから同じクラブ、サークル活動に参加していた。	123 (63.4)
b. はじめから参加していない。	18 (9.3)
c. 参加していたけれども、やめた。	30 (15.5)
d. はじめは参加していなかったけれども、途中で参加した。	12 (6.2)
e. はじめとは違うクラブ、サークルに参加していた。	10 (5.2)
f. 無記入。	1 (0.5)
計	194 (100)

に魅力があった、なんとなく、一つのものを身につけたかった(各2)

b. 「クラブ活動に参加して、どのように感じましたか」

1. 厳しい(40), 2. 自分のためになる(21), 3. 良かった(18), 4. 矛盾を感じた, 友だちができた, 上下関係がきびしい(各4), 7. 実力主義, チームワークの大切さ, 人間関係を学べた(各3)。

(参加に満足)

充実していた(6), 得るものが多い(3), 人間関係がよかった, 最高の施設でトレーニングできた(各2)。

(不満足)

満足な成績が残せない, 上下関係, 強制される面が多い, 自分の生き方が大きく変わってしまった, 指導者がほしい(各1)。

c. 「クラブ, サークルに参加しなかったことについてどう思うか」

1. 後悔していない(7), 2. 時間を有効に使えた(5), 3. クラブの封建的なものについていけなかった, 学外でやっていた, 後悔している(各2)。

「クラブ, サークルを途中でやめた理由」

1. 身体的故障(6), 2. 方針にあわなかった, 時間的問題(各5), 4. 自分が考えていたことと違って(4), 5. 雰囲気嫌い, 活動についていけなかった(各5)。

「はじめは参加していなかったけれども, 途中から参加した理由」

1. やりたいと思っていた(4), 2. 何かをやりたかった, 好きだから(各2)。

「他のクラブ, サークルに移った理由」

1. 身体の故障, それをやりたかった(各3), 3. 経済的理由(2), 家庭の事情。

4. 余暇時間について

第4表 平日の余暇活動(実数)

上位10位まで

	4 年 次			1 年次
	自 宅	寮	下 宿	
1. 読 書	12	4	51	22
2. 休 養	10	1	44	52
3. アルバイト	25	0	29	6
4. 社 交	21	1	23	4
5. 家 事	7	2	32	56
6. 趣 味	10	0	28	11
7. 買 い 物	10	0	26	16
8. 音 楽 鑑 賞	4	1	26	
9. スポーツ活動	10	1	4	
10. 勉 強	3	0	5	4

a. 「あなたは、余暇時間（授業・クラブ活動以外の時間）をどのように使っていますか」音楽鑑賞は4年次に計31名あるが1年次にはピアノが10名あったのでこれに含まれるであろう。スポーツ活動は4年次で15名であるが、1年次には見られなかった。

1年次は家事と休養が1位、2位を占めていたが、4年次では読書、休養となっている。アルバイトの数が多くなっているのが目立つ。

b. 長期休暇（4年次の夏）の活動をみよう。

1年次に10位以内にあった帰省、買物、すきなことなどが10位以下に下がっている。4年次ではクラブ活動、就職関係がふえている。4年次の10位以下に買い物（6）、読書（5）、社体実習（3）などがあつた。

第5表 長期休暇（4年次の夏）（実数）

上位10位まで

	4年次			1年次
	自宅	寮	下宿	
1. 旅行	23	1	26	21
2. アルバイト	29	0	17	24
3. 後輩の指導	6	1	20	8
4. クラブ活動	7	3	24	
5. 勉強	12	0	16	1
6. 就職関係	2	0	13	
7. 休息	1	1	17	
8. 家事	3	1	10	3
9. スポーツ活動	4	0	6	
10. 社交	6	0	3	6

第6表 時間と金に恵まれたら（平日）（実数）

上位10位まで

	4年次			1年次
	自宅	寮	下宿	
1. 買い物	12	0	37	43
2. スポーツ活動	15	5	26	6
3. 習い事	19	3	18	
4. 趣味	6	0	16	8
5. 旅行	6	0	12	
6. 映画鑑賞	4	0	14	6
7. 読書	3	0	8	14
8. 食事	4	0	6	10
9. 勉強	3	0	4	
10. アルバイト	1	1	4	

c. 「もし、あなたに時間とお金に恵まれたら、どのような余暇活動を行いたいと思いますか」を比較して10位までをあげてみると次のようになる。

1年次では買い物(1位)の次に休息があったが消えて、習い事に代わっている。1年次には旅行がなかったが、4年次ではそれが5位に上がっている。1年次になかったものは勉強とアルバイトであった。

長期休暇の場合が第7表である。

第7表 長期休暇の希望

	大学(4年次)			1年次
	自宅	寮	下宿	
1. 旅行	55	7	109	156
2. スポーツ活動	5	1	8	0
3. 遊び	0	0	0	1
4. 留学	0	0	2	0
5. 休養	0	0	2	1
計	60	8	121	158

旅行は4年次も1年次も同じように1位である。1年次には2位が帰省であった。これは合宿などに基づく希望であったのであろう。

5. 大学生活における専攻について

a. 「大学生活において、どのような力の入れ方をしているか」についての質問には、該当するものに○をつけるのであるが、一つとは限らずにいくつ○をつけてもよい。第8表は、被調査者総数における%表である。( )内は1年次の%である。

「特に力を入れた」と「どちらかといえば力を入れた」をみると「専攻に関する学問、技能」が50%以上である。「人間づきあい」は1年次は63%あったものが、4年次では86%に上昇している。「人間の存在の問題の追究」は、1年次では23%であったものが、4年次では55%に上昇している。4年間の人間的上昇を示している。1年次にくらべて上昇しているものに「広く社会勉強」がある。

b. 「特に力を入れた人は、その専攻の中で何を行ったか」については、1年次の順位をみると、1.ダンス(19)、2.実技(16)、3.新体操(14)、4.球技(13)、5.バレーボール(12)、6.陸上(11)、7.水泳(10)、8.ピアノ(1)であった。

4年次においては、次のようになっている。1.球技(20)、2.体操競技(12)、3.保健体育科教育法(8)、4.陸上競技(7)、5.生理学(6)、6.野外活動(5)、7.ダンス(4)、8.学校体育行政、病理学、解剖学、体育社会学、クラブ(各2)。

c. 専攻とは別の分野の学問、技能

専攻とは別の分野の学問、技能の1年次の5位までをあげると次のようであった。

1.生物学(4), 2.英語(3), 3.ピアノ, 音楽(各1)。

4年次の5位までをあげると次のようである。

1.英語(5), 2.数学, 化学, 体操競技(各2), 3.陸上競技, 文学, 野外活動(各1)。

第8表 総数における%〔194名〕

( )は1年次〔206名〕

	特に力をい れた	どちらかとい えれば力を いれた	?	どちらかとい えれば力をい れなかった	全く力をい れなかった
(1) 専攻に関する学 問, 技能	31.6(25.1)	48.4(27.8)	10.0(18.5)	8.9( 5.8)	1.1( 1.0)
(2) 専攻とは別の分 野の学問, 技能	2.6( 2.7)	32.0(13.1)	31.9(30.5)	25.7(27.0)	7.9( 5.8)
(3) 社会構造の追究 ・改革	1.1( 1.0)	7.9( 2.7)	35.8(22.4)	31.0(26.3)	24.2(24.7)
(4) 自己の存在の問 題の追究	18.5( 6.9)	36.5(18.5)	32.8(30.1)	9.5(15.4)	2.6( 5.4)
(5) 人間づきあい	43.7(23.6)	43.2(39.8)	10.5(10.0)	2.6( 3.9)	0 ( 1.0)
(6) 趣味・余暇	20.4(10.4)	38.2(24.3)	15.1(17.4)	21.5(15.1)	4.7( 8.1)
(7) 広く社会勉強	13.0( 6.2)	35.5(16.2)	18.8(26.6)	27.1(18.5)	4.7( 8.1)
(8) その他( )	57.1( 2.0)	9.5( 0 )	23.8( 2.3)	4.8( 0 )	4.8( 0 )

6. 交友関係について

a. 「良い友達にめぐりあったか」

大学生活で、尊敬できる、あるいは親しみを感じられる学友にめぐりあったかについては次の第9表である。

第9表 良い友達にめぐりあったか (実数)

( )は%

	4 年 次				1 年 次
	総 数	自 宅	寮	下 宿	
めぐりあった	167(86.0)	54(27.8)	6(3.0)	107(55.1)	116(56.3)
1. 同じサークル	56	12	2	42	29(25.0)
2. 同じクラス	93	44	4	45	59(50.9)
3. 同じ住居(寮・下宿)	17	3	1	13	17(14.7)

「どんな友達か」

それは、その学友のどんな面についてか(自由記述)の10位まであげると、1年次では、1.人間性(38)、2.相談にのってくれる(14)、3.自分に厳しい考え方をもっている(12)、4.思いやりがある(8)、5.がんばりや(5)、6.考え方(4)、7.考え方が似ている—気が合う(3)、8.学問、技能についてすぐれている(1)。その他の性格には、明るい、信頼できる、気取りがない、誠実、親切、趣味があう、何かに情熱をもっている、などがあつた。

4年次では、1.人間性(49)、2.相談にのってくれる(25)、3.他人に対する思いやり(23)、4.懸命さ、熱心さ(16)、5.態度(15)、6.責任感(9)、7.自分にない考え方(9)、8.考え方が似ている(9)、9.明るさ(8)、10.信頼できる(8)、であつた。

b. 交友関係についての満足度は次の通りである。

第10表 満足度の1年次との比較 ( )は%

	4年次	1年次
1. 大変満足	37 (19.3)	19 (9.7)
2. 比較的満足	91 (47.4)	61 (31.3)
3. 普通	46 (23.9)	76 (38.9)
4. 少し満足	5 (2.6)	0
5. 比較的不満	10 (5.2)	23 (11.7)
6. まだ良く分らない	3 (1.5)	16 (8.2)
計	192 (100)	195 (100)

なお、4年次の交友関係の満足度を自宅、寮、下宿でみると、それぞれに満足度は高い。

第11表 交友関係の満足度 ( )は%

	4年次		
	自宅	寮	下宿
1. 大変満足	13 (22)	0	24 (19.4)
2. 比較的満足	26 (44)	4 (44.4)	61 (49.2)
3. 普通	16 (27.1)	4 (44.4)	26 (21.0)
4. 少し満足	1 (1.7)	0	4 (3.2)
5. 比較的不満	2 (3.4)	1 (11.1)	7 (5.6)
6. まだ良く分らない	1 (1.7)	0	2 (1.6)
計	59 (100)	9 (100)	124 (100)

c. 「現在校内での交友関係が満足でないとしたら、その主な理由は、次のどれに相当しますか」については第12表の通りである。

1年次の時の最も多かったのは「人間的に深く親しみをもつことができない」が31~50%で



第 12 表 交友関係で満足できない理由

( )は%

	4 年 次		
	自 宅	寮	下 宿
1. 人間的に深く親しみを持つことが出来ないので	10(35.7)		20(24.7)
2. 学問的な面での交流が活発でない	1(3.6)		4(4.9)
3. 行動面で手本となる人がいない			3(3.7)
4. 幅広い交友関係が持てない	3(10.7)	1(14.3)	17(21.0)
5. つきあう暇がない	10(35.7)	6(85.7)	27(33.3)
6. その他の理由	4(14.3)		10(12.3)
計	28(100)	7(100)	81(100)

第 13 表 交際のきっかけ

( )は%

	4 年 次			1 年次
	自 宅	寮	下 宿	
1. 学内で行われた各種の行事を通して	8(11.0)	1(11.1)	11(8.0)	(5.4)
2. クラブ活動のような学生生活動を通して	19(26.0)	2(22.2)	75(54.3)	(56.8)
3. 講義の機会を通して	12(16.4)	1(11.1)	9(6.5)	(10.4)
4. 他人の紹介で				(0.9)
5. 偶然の機会	9(12.3)	1(11.1)	11(8.0)	(5.0)
6. 上の多種のきっかけが組みあわさって	22(30.1)	4(44.4)	29(21.0)	(19.0)
7. その他の理由	3(4.1)		3(2.2)	(2.2)
計	73(100)	9(100)	138(100)	220(100)

第 14 表 友だち関係が続く理由

( )は%

	4 年 次			1 年次
	自 宅	寮	下 宿	
1. 学問的交流	1(1.1)		5(2.4)	(1.4)
2. 共通の趣味あるいは興味	13(14.4)	1(11.1)	36(17.0)	(16.9)
3. 共通の問題あるいは悩み	8(8.9)	2(22.2)	27(12.8)	(11.1)
4. 人間的理解	15(16.7)	1(11.1)	40(19.0)	(10.3)
5. 家庭背景の類似			2(0.9)	(0.2)
6. 身体的魅力	36(40.0)		1(0.5)	(0.2)
7. 互いに性格的に合う	12(13.3)	2(22.2)	51(24.2)	(29.2)
8. 上の多種の理由が組みあわさって	3(3.3)	1(11.1)	41(19.4)	(12.6)
9. 別に特別な理由はない	1(1.1)	2(22.2)	4(1.9)	(11.4)
10. その他の理由	1(1.1)		3(1.4)	(5.4)
無 回 答			1(0.5)	
計	90(100)	9(100)	211(100)	349(100)

あったが、4年次では「つきあう暇がない」の計37%であった。「人間的に深く親しみをもつことが出来ない」は25.8%に下がっている。

d. 「交際のきっかけ」は、1年次と同様に「クラブ活動のような学生活動を通して」が多い。(第13表)

「交友関係が永く続く理由」は「性格が合う」が最も多い。(第14表)

e. 異性との交際について

異性交友の影響についてみてみよう。

第 15 表 異 性 交 友 の 影 響

( )は%

	4 年 次			1 年 次
	自 宅	寮	下 宿	
1. 良い影響をもたらす	33(55.0)	2(22.2)	48(38.7)	(31.3)
2. 別にさしさわりはしない	15(25.0)	2(22.2)	32(25.8)	(33.3)
3. さしさわりがある	3( 5.0)	1(11.1)	12( 9.7)	( 4.4)
4. 何とも言えない	9(15.0)	4(44.4)	32(25.8)	(30.8)
計	60(100)	9(100)	124(100)	(100)

1年次の時は「別にさしさわりが無い」が1位で、「良い影響をもたらす」が2位、「何とも言えない」が3位であったが、4年次では「良い影響」が1位、「別にさしさわりが無い」が2位である。

その良い影響とは、第16表である。

異性交友の悪い影響は、第17表の通りである。

第 16 表 異 性 交 友 の 良 い 影 響

( )は%

	4 年 次			1 年 次
	自 宅	寮	下 宿	
1. 私自身の成長の助けになる (自己発見・人格形成など)	38(42.2)	7(77.8)	91(52.3)	(50.8)
2. 生活を有効に又、楽しくさせる	26(28.9)	1(11.1)	38(21.8)	(15.2)
3. 円満な対人関係を学べる	12(13.3)	1(11.1)	25(14.4)	(17.6)
4. 学業の助けになる	1( 1.1)		4( 2.3)	( 2.5)
5. 異性と親しくすることで、将来配偶者を選択する場合の助けになる	8( 8.9)		7( 4.0)	( 4.7)
6. そ の 他	1( 1.1)		3( 1.7)	( 4.3)
7. 無 回 答	4( 4.4)		6( 3.4)	
計	90(100)	9(100)	174(100)	(100)

第 17 表 異 性 交 友 の 悪 い 影 響

( )は%

	4 年 次			1 年 次
	自 宅	寮	下 宿	
1. 精神的に不安定で疲れる	12(25.5)	4(57.1)	33(22.3)	(32.7)
2. 時間を多く浪費する	11(23.4)	0	22(14.9)	(23.8)
3. 経済的に多くの負担がある	8(17.0)	0	13( 8.8)	( 6.9)
4. 学業に多くのさしさわりがある	4( 8.7)	1(14.3)	13( 8.8)	(10.0)
5. 他の友達との交際の妨げになる	6(12.8)	1(14.3)	26(17.6)	(11.3)
6. その他の理由	6(12.8)	1(14.3)	20(13.5)	(23.8)
無 回 答			21(14.2)	
計	47(100)	7(100)	148(100)	(100)

## 7. 学生相談，教育相談について

「先生にすでに相談したこと，又これから相談したいことがあれば，次の中から選んでください」については第18表の通りである。

第 18 表 相 談 事 項

(すでに相談したこと) (これから相談したいこと)

	4 年 次	1 年 次	4 年 次	1 年 次
1. 将来の進路	37	3	44	46
2. 単位又は学業	12	3	13	31
3. 性 格	4	1	6	19
4. 家庭の問題	3	4	5	16
5. 対人関係	3	0	6	12
6. 人 生 観	2	1	4	5
計	61	12	78	129

## 8. 学習について

質問は「次のいろいろな意見について，あなたの賛否を率直に教えてください」であり，その項目は第19表の23である。1年次のものは紙数の都合で省略する。

1年次に賛成された項目を比較的多いものから順に6位まであげると，1.在学中に専門をしっかり勉強しておきたいと思っている，2.大学時代に広い教養を身につけたいと思っている，3.将来はよい教師になりたいと思っている，4.将来は自分の専攻を活かせる方向に進みたいと思っている，5.できるだけよい成績をとりたい，6.先生方と親しく話す機会はほとんどない，であった。

4年次では，1.将来は自分の専攻を活かせる方向に進みたいと思っている，2.在学中に専門

第 19 表 学 習 に つ い て (実数)

	4 年 次					
	自 宅		寮		下 宿	
	ハイ	イイエ	ハイ	イイエ	ハイ	イイエ
1. 大学時代に幅の広い教養を身につけたいと思っている	55	4	6	3	105	9
2. できるだけよい成績をとりたい	38	7	7	2	97	6
3. 勉強の計画を立てるのが楽しみである	13	27	1	2	20	58
4. 興味をひく授業を受けたときは、それに関連したことを自分で調べてみる	41	11	6	3	59	35
5. 講義は、自分と無関係なことのような感じがして身が入らない	4	42	1	2	7	86
6. たいがいの授業は、授業中に居眠りしたり、授業に関係のないことをすることが多い	8	46	2	3	6	88
7. 何の為に勉強しているのか自分なりに、はっきりした目的をもっている	37	12	3	4	83	13
8. 将来はよい教師になりたいと思っている	33	16	2	6	78	17
9. 休みが終わると「また授業か」と思って憂うつになる	21	29	0	3	41	56
10. 在学中に専門をしっかり勉強しておきたいと思っている	44	4	8	1	107	4
11. 仲間で読書会をするのが楽しみである	1	44	1	0	3	90
12. 勉強を始めると、くぎりがつくまで、他のことを始める気がしない	23	31	2	4	44	57
13. どんなにやりたいことでも、勉強とどちらが大切かを考えてからでなければ手をつけない	5	47	2	2	11	83
14. 教師を囲んで、ゼミや研究会をもつのが楽しみである	18	17	0	5	34	33
15. 大学時代に思う存分遊んでおきたいと思っている	40	5	3	1	75	14
16. 先生方と親しく話す機会はほとんどない	28	27	6	0	54	45
17. 単位で可や不可をもらうことはあまりない	21	30	1	2	38	50
18. 親しい教師を囲んで、いろいろおしゃべりするの楽しみである。	27	13	6	1	52	20
19. 出席さえとらなければ、たいがいの授業には出たくないと思っている	18	30	1	4	19	78
20. くだらない人物だと思える教師があまりに多すぎると思っている	11	26	1	4	8	61
21. 将来は自分の専攻を活かせる方向に進みたいと思っている	47	6	7	2	112	4
22. 「多くの学生はもっとまじめに授業をきくべきだ」と思う	26	13	6	3	66	12
23. 私は充実した学生生活を送っている方だと思う	34	10	5	2	74	6

をしっかり勉強したいと思っている, 3.将来はよい先生になりたいと思っている, 4.大学時代に思う存分遊んでおきたいと思っている, 5.興味をひく授業を受けたときは, それに関連したことを自分で調べてみる, である。

#### 9. 就職希望について

入学時の将来の就職希望と4年次の就職希望の比較をみてみよう。

入学時の就職希望は公立, 私立の学校希望が1位, 2位と多かったが, 近年の就職の困難さをわきまえてか, その数は減少して, 体育施設, 会社関係が多くなっている。その結果は第20表の通りである。

第 20 表 卒業後の就職希望

	4 年 次			1 年次
	自 宅	寮	下 宿	
1. 大 学			1	1
2. 公立学校(小, 中, 高)	15	4	34	127
3. 私立学校(小, 中, 高)	5	1	3	32
4. 公・私立幼稚園				
5. 公・私立保育園	1			
6. 官 公 庁	2		3	1
7. 体育施設(スポーツクラブ)	18	1	20	7
8. 医療施設(リハビリ)・レクリエーション	1		4	2
9. 会 社	13	2	6	1
10. 公融機関(銀行その他)				
11. 進 学			1	
12. 家事手伝い	1		2	
13. その他(研究所聴講生等)	2		4	1
14. 就職せず			1	1
計	58	8	79	173

#### 10. 4年間を通じての感想

在学4年間を通じての感想を次の項目について述べてもらった。

##### a. 大学の授業・施設等について

上位10位までのものは次の通りである。1.施設が整っていた(35), 2.施設を有効に使えない(22), 3.尊敬できる先生が少ない(21), 4.教室の施設が不十分(20), 5.授業の選択が自由でない, 積極的に授業に参加すればよかった(各19), 7.授業に魅力がなかった(13), 8.授業の組み立てが悪い(12), 9.学校施設が不十分(10), 10. 学生食堂, 売店の工夫(7)。

10位以下には, 学業に専念できた(7), キャンパスが狭い(7), 実技の授業が充実していた

(6), 体育施設をきれいにしてほしい(6), 学生の態度が悪い(4), 専門分野の時間を増してほしい, などがあった。

b. 大学の課外活動について

1. クラブ活動に疑問を感じた(とくに人間関係)(33), 2. 自主性に欠け, 強制的である(18), 3. 4年間続けてきてよかった(14), 4. 楽しめるクラブがほしかった(16), 5. 活発である(8), 6. 自由時間がほしかった(7), 7. 自分の為になった(6), 8. クラブに対して誇りをもっている(5), 9. 施設が不十分である(4), 10. 指導者への不満がある(3)。

c. 大学の教育実習, 就職指導について

1. 就職指導が不十分であった(35), 2. 良い経験になった(25), 3. 教育実習の指導は十分であった(21), 4. 就職指導は十分であった(19), 5. 教育実習の時期を考えてほしい(17), 6. 教育実習の指導は不十分であった(7), 7. 教育実習のための授業を行ってほしい(5), 8. 時間割が実習とうまくかみあっていない(4), 9. 教師の適性がわかった(3), 10. 社会体育専攻の人に対して力を入れてほしい(2)。

d. その他とくに感じたこと

1. 事務職員の態度が気になる(9), 2. 施設が不十分である, 学園祭をもっと盛大にやるべきだ, 体育大の体質はどうあるべきか(各5), 5. 学校体育は充実しているが, 社会体育は不十分(2)。

## II. ま と め

### 1. 通学方法について

4年生では約64%が通学の便を考えての下宿生活となる。

### 2. 大学生活について

大学生活についての満足感は41%, 不満足27%であった。満足の理由は, 充実, 友人, 自分自身を見つめることができた, などであるが, クラブの上下関係, 設備, 自主性に欠けるなどの批判がある。

### 3. サークル活動について

入学以来継続しているものが63%, 転部したものが11%で, はじめから不参加のものが9%であった。

クラブ活動参加の感想は, 厳しい, 自分の為になった, 充実していたなどで, 不満足な点は, 満足した成績が残せなかった, 上下関係のきびしさ, 強制されるなど, 途中でやめたものは, 身体的故障, 方針があわなかった, 時間的問題, などであった。

### 4. 余暇時間について

4年生の平日の余暇時間は, 読書, 休養, アルバイト, 社交, 家事などである。4年時の夏休みは, 旅行, アルバイト, 後輩の指導, クラブ活動, 勉強などであった。もし時間とお金に恵まれたら, 買い物, スポーツ活動, 習い事, 趣味を選びたいとなっている。

### 5. 大学における専攻について

大学生活において, どのような力の入れ方をしているか, については, 「特に力を入れた」

と「どちらかといえば力を入れた」は専攻に関する学問、技能が50%以上である。「人間づきあい」は86%、「人間の存在の問題の追究」は55%である。

#### 5. 交友関係について

「良い友だちにめぐりあった」が86.0%である。良い友だちは、人間性、相談にのってくれる、思いやりがあるなどで、不満足な理由は「つきあう暇がない」が37%であった。

交際のきっかけは、1年次と同様に「クラブ活動のような学生活動を通して」が多い。

異性交友関係については、1年次では「別にさしさわりがない」が1位であったが、4年次では「良い影響をもたらす」が1位となった。

#### 6. 学生相談、教育相談について

これは「将来の進路」、「単位又は学業」、「性格」の順である。

#### 7. 学習について

1年次では「在学中に専門をしっかり勉強したい」が多かったが、4年次では「幅の広い教養」が1位で「将来は自分の専攻を」が2位、3位は「専門をしっかり勉強」となっている。

#### 8. 就職希望について

1年次は公立、私立学校が多かったが、4年次では体育施設、会社関係が2位、3位に浮上してきた。

#### 9. 4年間を通じての感想について

施設については、施設が整っていた、施設が有効に使えないが目立っていた。

課外活動については、クラブ活動に人間関係に疑問を感じた、自主性に欠け、強制的であるが目立っている。

教育実習では、良い経験になった、教育実習の指導は十分であった、教育実習の時期を考えてほしい、が目立っている。

就職指導は、指導が十分であった、不十分であった、が共に見られた。

10. その他は、数が少なかったが事務職員の態度が気になる、施設が不十分である、学園祭をもっと盛大にやるべきだ、体育大の本質について、などがあつた。

1年次との比較をくわしくみることができなかつたが、昭和55年度の本学女子体育研究所集録を参照されたい。保体と児教の卒業時との比較は今後の検討に残した。

今日の青年期問題について、その意識面に不安材料がないではなかつたが、今回の意識調査の結果は心配するものはなく、本学学生の健全な意識を知ることができた。卒業生の今後の発展を祈るばかりである。

## 参 照 文 献

1. 東京女子体育大学 女子体育研究所集録 6号 1980年7月
2. 同 上 7号 1981年7月

Survey of Conception of Daily Life of the  
Students at Tokyo Women's Physical Education  
College (Part 3)

Tsuyako Takahashi

Tadashi Sato

Michiko Kakemizu

Same group of students at Tokyo Women's Physical Education College was studied in their conception of daily life right after the time of admission and before graduation. The items studied included

- 1) general opinion about the college,
- 2) extracurricular activities,
- 3) way to spend leisure hours,
- 4) point of emphasis in college life,
- 5) friends,
- 6) matters they wish to consult on education and daily life,
- 7) studying,
- 8) job opportunities, and
- 9) general remarks.

Upon analyzing the results, it was happily found that the students showed little unsincere and unfriendly attitude, but rather they proved to be honest and healthy.